学校給食だより

秋田っ子給食

NO－572

公益財団法人秋田県学校給食会

由利本荘市　鳥海小・中　給食でフライ提供　アブラツノザメ堪能



本県沖で取れたアブラツノザメを使った給食が 28 日、由利本荘市の鳥海小、中学校で振る舞われた。

アブラツノザメの消費拡大を目指すにかほ市の漁師・佐藤栄治郎さん（33）の提案で実施。アブラツノザメは本県沖で 12～3 月ごろに漁獲されるが、網を傷つけたり、他の魚を食べたりするため“厄介者”と言われることが多い。

身は淡泊な味わいで刺し身や煮物、照り焼きなどで食べられている。

給食ではフライとして約 190 人分が提供された。児童生徒は「おいしい」「おかわりしたい」と会話を楽しみながら味わっていた。



眞坂星夢さん（6 年）は「いつも食べている魚より食感がフワフワしていて骨がなくて食べやすかった」と話した。黒木大雅さん（同）は「すごくやわらかくておいしい。ご飯が何杯でも食べられそう」と笑顔を見せた。

佐藤さんは「地元の魚に興味を持ち、たくさん食べてもらうきっかけになったらうれしい」と語った。（石塚佳治）

（令和8年10月 30 日（金）　秋田魁新聞より一部抜粋）